

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム桜の詩		
所在地	静岡県静岡市清水区船越2丁目9-71		
自己評価作成日	7/30	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202403-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 8月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がとつか会社全体として看取りやICTに力を入れている、介護記録はIPADを使い時間効率強化を図っている。静岡ホームクリニックとの医療連携をスムーズに行う為2か月に1度会議を行い、医療と介護の連携を強化している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、交通量も少なく豊かな自然と緑に囲まれた静かな環境の中にある。協力医の静岡ホームクリニックと連携が取れていて、医療面と医療に関する研修を積極的に行っており、利用者や家族、職員へも安心感を与えている。ホーム長は法人のBCPの取り組みに関わっており、静岡市社会福祉協議会の依頼で講師を行うなど系列の事業所からの質問にも答えている。また、ITにも精通しているため業務の中にITを取り入れ職員の負担を軽減し利用者に関わる時間を作っている。職員は20代から70代の男女の職員がおり、アイデアを出し合いながら、職員一人一人が考えて行動する介護支援を目指している。地域連携にも力を入れ、災害時に地域の高齢者の避難場所として開放する事を検討している。今後、外国人実習生を受け入れ、研修場所の確保を行い介護人材不足に対応できる体制づくりを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解した上でこの目標を立て実践している	現在のホーム長が着任後、理念を「ご入居者様の笑顔 職員の笑顔を大切にします。」に変更し、理念の共有と実践につなげるため、職員と会話をし、不透明な事を透明にし、業務を合理化して楽しく仕事ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭り、盆踊り、七夕まつり、喫茶店や外食等計画しているが現在コロナウイルスの影響で中止をしている	自治会に加入しており、自治会長は協力的で、時間をみつけて事業所に足を運んでくれる。前ホーム長が地元の人で職員も地元の人が多くその為、地域に認知され、溶け込んでいる。コロナ前は大家さんから七夕飾り用の笹を頂いたり地域行事にも積極的に参加していたが、現在は中止されている為、関係継続の方法を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサポートやボランティアの受け入れなど地域からの受け入れをしていたが現在コロナウイルスの影響で中止している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	桜の詩まつり、BBQ大会、敬老会、歌の会等計画しているがコロナ感染の為中止している	運営推進会議は月の水曜日に行う予定で日程は参加者の都合を聞いて、決定している。家族の参加は多く、参加できない方には議事録を郵送し職員は回覧している。行政にも日程を案内し、参加を促しているが参加が少ない。意見交換を行い、発言された意見はサービス向上に活かしている。	地域の参加者が少ないので、参加してもらえるような工夫に期待します。職員にも運営推進会議の意義や重要性を理解してもらえるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通じてホームで行っていることを伝えている	生活支援課とは密に情報交換しており、事業所にも時々足を運んでくれる。ホーム長が社会福祉協議会の依頼でBCPの講師をしており、防災に関する意見交換を行政とも行っている。研修の情報はメールで届き、研修内容を精査して参加を決めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回の研修を通じて理解をしている	マニュアルは法人用と事業所用と整備している。委員会のメンバーはホーム長を中心に職員と年4回の会議を行っている。現在、研修は全職員で行うがコロナ禍の為、YouTubeの画像を利用して行っている。利用者の身体の変異についてはすぐにカンファレンスで検討する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等で理解している、チームとして職員同士注視している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在桜の詩に権利擁護を使用している人はいないが制度がある事は知っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見のあったことについてホーム内会議にて話し合い業務に反映している	家族に声かけをして、面会の際に積極的に意見を伺うようにしたので、家族から意見や要望を聞けるようになった。ボランティアをしたいという希望や食事形態や認知症についての研修についての要望もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内会議などでは職員の意見を重視し日々の業務に反映している	ホーム長が積極的に職員との会話を増やし、職員の考えを聞き出している。職員からの意見はすぐに取り入れ試してもらい、現場のことは職員が考えて行動できるように推めている。業務を合理化して利用者に関わる時間を増やすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を使い評価、キャリアアップの制度を準備している段階である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ホーム研修を通じ年4回以上の勉強会をしているその他にも外部医療機関の研修をお願いし、医療に関する知識を向上している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社内で分科会制度を設け該当の管理者は外部研修や研究会などに参加しているため外部の施設長や職員と交流する機会がある		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを積極的にとり、ご本人様の意見を傾聴し、信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望もきちんと聞き取りします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要か常に見極めていけるよう努めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な家事は行ってもらい される だけの立場にはおかない様に努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報を共有し、ともに支えあっていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人との関係継続に努め、感じよく対応を行っています。	家族が頻繁に面会に来ており、兄弟や馴染みの関係の教会の友人がきてくれることもある。事業所では本人の意向に沿えるよう、要望があれば墓参りや行きたい所に連れて行く個別支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション等にてスタッフが和音をていきょうし、互いに興味を抱き関心を抱けるように働きかけている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後も何かあればご連絡くださいとその後も連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や以降を尊重しながらその人らしく暮らしていけるように努めている	初回アセスメントはホーム長が詳しく聞き、職員に情報を共有してもらう。月に1度のユニット会議で全員のカンファレンスを行なっている。意向の把握が困難な方は、できるだけ声掛けをしてその表情や態度などを注意深く見てケアしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報共有に努めたり本人や家族からお聞きしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースを尊重したり体調に配慮しながら残存能力の発揮を促している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議を通してみんなで意見を出し合い話し合っている	タブレットには毎日、ケース記録、バイタル、排泄、食事等の情報を記録してモニタリング表に書かれた情報も参考に個人カンファレンスをしている。ケアマネジャーはこの情報を基に医師や看護師、訪問マッサージ師等の意見を聞いて介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子に加え様々な気づきを記入し情報共有に努めているさらに実践や計画に反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パーソンセンタードケアを元にその人のニーズに答えられるようにできる範囲で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍にてあまり地域との交流が出来ていませんが、公園への道中高齢の方が通りがかった際になにか不自由なことがあれば協力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の病院と提携しているため、何かあればすぐに対応が可能、日々の観察を介護職員がしっかりと行い変化があればDr、Nsに報告をしている	現在は全利用者が入居時に協力医をかかりつけ医に選択している。24時間対応で、全体診察が月に1度、利用者の定期診察を含め、週に4日は往診してくれるので利用者の気になることはすぐに相談できる体制が整備されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ICTなどを使い口頭での説明が難しいものなどは写真や動画などを使いうまく説明している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	会社にて地域連携室を設け普段から病院とのコネクションを作ってくれている為、スムーズに話が進んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的にご家族に今後の事をお話しをし、終末期になったらDr、施設長、ご家族にて話し合いをしながら支援している	入居時事業所の方針を利用者、家族に説明し、その後、半年毎に利用者の様子をふまえ、利用者、家族の意向を再確認している。状態変化の時は、家族と医師、ホーム長が対応について話し合い、全職員に周知する。研修も医師、看護師により定期的に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度消防立ち合いの元救急時の対応訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	桜の詩は水害がある地域でもあるため、垂直訓練、夜間想定訓練などを行っている地域の高齢者などを受け入れることも視野に入れている	年に2回地震火災想定、年に1回水害想定訓練を行なっている。BCPのシートに事業所ごとの対応を記入し法人で検証している。夜間想定で垂直訓練を行った。災害時に地域の住民を受け入れる体制を整えており、発電機の購入も決定している。備蓄はリストも整備され、2階に保管している。	職員の中には緊急時の対応に不安があるという意見があるので、全職員が訓練を体験し早急に利用者の避難ができる方法を身に付けられるよう望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様には常に敬語で解りやすい声掛けをする様に努め、排泄や更衣の際などもしっかりと扉を閉めプライバシーに配慮している	施設内では、職員の落ちついた優しい声が聞かれ、挨拶も習慣になっている。職員は敬語で話すように努めており、時には「～していいですか？」と意向を聞いている。排泄の確認はプライバシーに配慮し「健康チェック」と言い換える等の工夫をしている。スピーチロックの研修も定期的に行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望、趣向を受け止めやすい声掛け、二者選択等を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間等を入居者様が傾眠されていたり、眠いと訴えられたときに合わせる等、相手の都合、希望に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択の際は入居者様と職員が一緒に決めている、アドバイスなどをし着合わせなどチェックしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかなどを聞きなるべく献立に反映できるようにしている、簡単な手伝いなどをさせていただいている	食材はスーパーやネットで注文し、献立は職員が考え、調理が苦手な職員にはベテラン職員がサポートしながら、調理している。クリニックの栄養士が時々栄養指導をしたり、誕生日には利用者の食べたいものを聞き、献立に取り入れている。利用者は玉ねぎの皮むきなどの下ごしらえや配膳、食器拭き等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日必要な水分量を接種していただいている、食事量も個人に合わせ、栄養士からのアドバイスもいただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとり応じた口腔ケアの実施、自立の方は声掛け誘導、介助が必要な方、うがいが出来ない方口腔スポンジにて除去している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとり応じたトイレ誘導を行っている、尿量が多い方は時間で誘導なるべくトイレでの排泄支援をしている腹部マッサージ、肛門マッサージを行い排泄を促している	排泄の記録はタブレットに入力し、職員間で共有している。利用者の表情や様子をみて、トイレへ誘導し、2人介助であっても、できるだけトイレでの排泄に努めている。ホームクリニックで排泄についての研修を行ってもらい、入居時から改善例も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、サツマイモなど食物繊維を接種していただいている、足の運動でおなかを刺激し、腹部マッサージ、肛門マッサージを行い排泄を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングを見計らい声掛けし気持ちよく入浴していただく、入浴剤を入れ見た目、香りでも心地よく1対1の時間会話を楽しんでいたなどしている。拒否がある際は時間や日程をずらすなど本人の意見を尊重している	3日に1度午前か午後に入浴している。3種類の入浴剤からその日の気分で選択してもらったり、入浴しながら歌を歌ったりと個別支援を行い、入浴を楽しむ工夫をしている。同性介助希望者には、意向に沿えるよう職員間で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に応じ午後は休息する時間を作っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解し症状、体調の変化、日々観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとり好きなものを理解し、取り入れたり日暮の生活、会話をしている際に何が好きなのか、若いころは何をしていたのか汲み取り役割を分担している、お手伝いしていただいた際は感謝を伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	動物園や公園などの企画はあるがコロナ禍の影響で出かけられていない	コロナ禍でも密にならない環境なので、体力を落とさないよう施設の近くや広い敷地を散歩している。地域の方々とは挨拶のできる関係性を築き、家族にはお盆の墓参り等の外出支援に協力してもらっている。コロナ禍の現在は、レクリエーション委員会が施設の中で行うお楽しみを企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて金銭管理をしているほしいものがあれば一緒に買い物に行かされている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立されている方は携帯電話にてお話しをされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着かれない様な賑やかな飾りつけはしない、季節の花を飾り季節感のあるカレンダーづくりをしている	職員と共に毎月、作成した季節を感じるカレンダーや、外出、レクリエーションの時に撮った利用者の笑顔の写真などが掲示されている。事業所は緑に囲まれ、みかん畑に面したベランダに出ると滝の音が聞こえ、五感を刺激しながら、おやつを食べたり日光浴をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立の方は自室に戻られたり、テラスで過ごされたりと自由に過ごされている、介助が必要な方は声掛けをし入居者様の意思を聞きだし誘導を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていた家具などを持ち込み自由に過ごせるようにしている	居室には、小引き出しやテーブル、タンス、仏壇等愛用している家具が置かれ、家族の写真や作品が飾ってある。ぬいぐるみが好きな利用者の部屋には職員に手伝ってもらい部屋いっぱい飾ってあり、自分らしい部屋づくりを楽しんでいる。また、クローゼットも大きく季節のものが収納できるため、室内は整然としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立の方は自由にフロアや自室、テラス、畑に行き来が出来、自立した生活を送れるようにしていますが見守りを強化している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム桜の詩		
所在地	静岡県清水区船越2丁目9-71		
自己評価作成日	7/30	評価結果市町村受理日	令和3年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202403-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2年 8月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がどうか会社全体として看取りやICTに力を入れている、介護記録はIPADを使い時間効率強化を図っている。静岡ホームクリニックとの医療連携をスムーズに行う為2か月に1度会議を行い、医療と介護の連携を強化している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会に参加し、ドブ掃除や地域の清掃等に参加している、現在はコロナ禍によって地域とのコミュニケーションは減っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	牛乳パック、雑紙など地域資源に提供する事によりつながりを保っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響以前は入居者様と散歩をすることにより入居者様を近所の方に認知していただいていた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括などの参加があり、施設での取り組みの報告や意見の聞き取りなどを行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員にホームに来ていただき現状を見ていただく事で理解を深めていただいた		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	医療機関との連携のもとに身体拘束についての研修を通じ職員同士の意識統一を計り、支援内容が拘束にならないかを見直している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回の研修を通じてホームでの課題や実際に他施設で起こった虐待などからどんな状況で虐待が起こるのかを分析し、そうならないように注視しあっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在桜の詩に権利擁護を使用している人はいないが制度がある事は知っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見のあったことについてホーム内会議にて話し合い業務に反映している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内会議などでは職員の意見を重視し日々の業務に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を使い評価、キャリアアップの制度を準備している段階である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ホーム研修を通じ年4回以上の勉強会をしている他にも外部医療機関の研修をお願いし、医療に関する知識を向上している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修、他事業所への応援等で情報を得ている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より何かあったらすぐに言ってね、何か困っていることはない？など声掛けをするよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりなにか声がかかったり、要望があればすぐにホーム長に相談している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族がどこまで理解をしているのかを把握し、一つ一つ聞いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてかかわっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も本人の意見に添うように考えてくださっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にどんな方だったのか、昔の事をききもっとその方を知っていく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相性をしっかり考えた座席の配置や談笑中も会話が円滑に進むよう職員が間に入り楽しい時間にする		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りサービス後残ってしまった荷物の保管させてもらう、または自宅にて使わない物を寄付していただくなどなくなった後もつながりがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴は日にち等決めずにその日その日ご本人に聞き、無理なく行う、水分もご本人が好きなものを聞いたり等し、対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこだわりや大事にしていることは日頃より行うようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分で行えることや最低限行っていただきたい動きは時間をかけて行って頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時チーム内で再認識を行っている、また日頃の申し送り等でも職員同士話し合うよう心掛けている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士で話し合い、行う。一人で考えず悩んだり迷ったりしたときはかならず周囲の職員に聞く		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにはできる限り対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍で難しかったりしますが可能な限り地域交流を心掛けていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	静岡ホームクリニックと連携し、体調の変化には迅速に連絡をに対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝静岡ホームクリニックとその日の受診確認や変わりのある入居者様の連絡をに対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要であるものは揃え、入院中も不自由を感じない様、安心できるよう心掛け病院関係者に様子や方針を伺う		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様、静岡ホームクリニック、ホーム長と話し合い、ご本人様、ご家族様の考えを尊重、共有し取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナの影響で定期的な訓練は困難ですが、日ごろ職員間で情報交換や共有をしっかりとし発生時には冷静に対応できるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナの影響で地域との協力体制はこのところ困難ですが職員間で災害時の対応の連携はできている。最近水害が多いので、夜間の水害発生時の訓練を行いました		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様各々にあった言葉かけをし、意思を尊重している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす前に入居者様に声掛けをし、希望を伺っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナウイルスの影響で難しいですが時間を作り、ドライブや個別対応での散歩を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調や天候に合わせて伺いながら着用していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は困難であったりしますが、下膳できるかたはしていただいたり、食器拭きをお願いしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	困難な方には刻み、ミキサー、トロミ等段階に合わせている、水分不足のからには飲み物を変えて接種しやすいよう提供している		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った口腔ケアを毎食後実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況に合わせて行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人にあった方法で行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人のタイミングに合わせて実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にそった支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr、薬剤師と連携しながら行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた音楽やレクリエーションの提供などを行っている		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方が望む形をとり支援をしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っており、ほしいものなどは一緒に買い物にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立されている方は携帯電話にてお話しをされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居様が落ち着かれない様な賑やかな飾りつけはしない、季節の花を飾り季節感のあるカレンダーづくりをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立の方は自室に戻られたり、テラスで過ごされたりと自由に過ごされている、介助が必要な方は声掛けをし入居者様の意思を聞きだし誘導を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていた家具などを持ち込み自由に過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立の方は自由にフロアや自室、テラス、畑に行き来が出来、自立した生活を送れるようにしていますが見守りを強化している		